

林道てくてく 第6回 [里山の林道を歩く]

伊勢原市日向～厚木市七沢 **＝薬師林道＝**

てくてく林道の選定は、①公共交通機関利用 ②日帰り ③見所があればなおよし を原則としている。くわえて、周辺の歴史や話題なども探り、歩きに深みを増すようにできればと心がけている。

今回は、伊勢原市と厚木市の里山にある「薬師林道」を選んだ。

林道の距離は、約3 kmと短いが3つの条件を満足し、しかも温泉入浴のおまげがつく、ゆったり余裕の1日コースである。

コース

小田急線伊勢原駅北口―(バス)―日陰道―日向薬師―薬師林道―七沢温泉―(バス)―本厚木駅ほか。

小田急線伊勢原駅の北口から日向薬師行きのバスに乗り、途中のバス停「高橋」で降りる。

林道だけ歩くのであれば終点まで行けばよいのだが、里山の風景を楽しみながら、歴史の道である「日陰道」を歩くためである。

日陰道

日陰道は、その名のとおり山の北斜面、日向川の右岸にある。

細いあぜ道や山道の1 kmほどの道である。標識がしっかりしているので、まちがうことはない。

わざわざこの道を歩くのは、源頼朝や政子、実朝夫人などが日向薬師に参詣したときや大山参詣者なども歩いた道であるというので、往時の気分をほんの少しだけでも味わいたいと思ったからである。

色づき始めた稲田を眺め瀬音を聞きながら20分ほど歩くと日向川にかかる「神明橋」につく。



ここが日陰道の終点である。



日陰道

棚田を見ながら、右手に少し下ると『薬師林道』の入口となる。

標識には、延長3061m、厚木市七沢まで50分とある。

林道てくてくであるから、ここから林道歩きというところだが、今日の見所の一つである霊山寺宝城坊、通称「日向薬師」に立ち寄ることにする。参道は林道と平行しているので回り道とはならない。

まず、参道の手前、高い石垣の奥にある、この地方の開拓や先進文化を広めたといわれる渡来人高麗王若光を祀るという白髭神社でしばしの休憩とする。

茅葺屋根の神社で、小さいながらもどことなく威厳がある。

ここ日向地区は、谷戸田が棚田状に続き山里の風情が残っている。また、彼岸花の里としても知ら

れ、花の時期にはおおぜいの人で賑わいをみせる所でもある。

日向薬師参道と寺林

建久5年(1194)8月、源頼朝が娘の病氣治癒の祈願に参詣した際に白装束に着替えたという「衣装場」を過ぎると仁王門。

大きな阿・吽の仁王が怖い顔で睨みつける。

門から続く参道は、見上げるような杉などの巨木が続き、岩を掘り込んで作られた階段は、角が丸みをおびて長い歴史を感じさせる。



参道

周囲の寺林は、県の指定天然記念物にしてされている。

スタジイ、モミ、ウラジロガシ、イロハモミジ、タブ、ケヤキなどが生育し、杉の巨木とあいまって幽玄で厳かな雰囲気満ちている。

最後の急な石段をのぼると、正面に大きな茅葺の本堂が目に見え込んでくる。

日向薬師

716年の開創といわれる霊山寺の坊の中で、唯一現存するのがこの宝城坊である。一般的には日向薬師と呼ばれている。

本堂は国の重要文化財に指定されている。数次にわたる改修が行われており、万治3年(1660)には、天領であった丹沢の木材100本の寄進を受けている。



日向薬師

境内には、推定樹齢800年の幡掛け杉が2本聳え、隣の宝殿には国の重要文化財となっている薬師如来像など多くの仏像が収蔵されている。

また、裏山一帯は、保健保安林に指定され、「日向薬師の森」として、保安林整備事業によってつくられた散策路などがある。

薬師林道

林道は寺の後ろを通っている。

ここで林道に合流し「てくてく」の始まりである。

林道は、昭和45(1970)年に完成し、その後、舗装や法面工事などが実施されている。

県営林道は、その性格や設置の状況により、一般車の進入を禁止するためにゲートが設置されている路線や警察の通行許可が必要な路線もある。

ただし、歩く分にはなんの制限

もないので、林道を利用したウォーキングを大いに推奨したい。

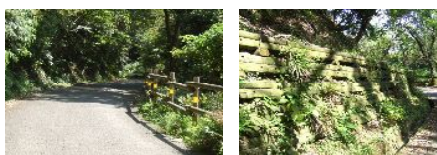
ここ薬師林道は、一般車の通行ができる道なので、てくてくのさいは、十分に注意されたい。



ほどなく林道は緩い下りになる。沿線の木々がトンネル状になっている所や手入れされた高いスギやヒノキの人工林が続き、まことに気持ちがいい。また、この林道は、林道工事に於ける木材利用の見本となるような道であるので、その点も是非ご覧いただきたい。

間伐丸太を使用した簡易な土留工、擁壁工、それに不法投棄防止をかねた柵工や丸太を貼り付けたガードレールなどがある。

周囲の自然景観に配慮しながら所定の目的を果たし、しかも木材の有効活用を図る工夫が伺える。



七沢石と森林セラピー

行く手に大きな露岩が見えてくる。石といえば、この地域に石材業者が多いことに気づかれるだろう。鐘ヶ岳の東麓から切り出され、「相模青石」とよばれる火山礫凝灰岩からなる石の産地であった。

採掘の歴史は古く、17世紀末に遡り、信州高遠の石工によって始められたという。高遠藩では農家の2・3男対策として、他国へ

の出稼ぎを奨励したため、一部の人が石工の技術を習得して全国各地で採石、加工をおこなった。

また、ここ七沢地区は、森林浴から一歩進んだ森林セラピーの基地として、全国で30数箇所指定されている内の一つで、森林セラピーロードなども設定されている。

展望台

木々のトンネルを抜けると展望台に着く。登ってみると、緑に覆われた里山と市街地が一望でき、天候によっては海も見えるのではないかと絶景である。



まもなく林道は終点となり、そのまま七沢温泉街へと入る。

七沢温泉

入浴を勧めるような看板はないが、声をかけると入浴させてくれるし、休憩もできる。入浴料1000円を払い、一風呂浴びて汗を流すとよい。源泉は23℃ほどなので沸かしてあるが、アルカリ性の強い透明な温泉である。

県内には620ヶ所の源泉があり、丹沢山地の温泉は、地下水が地温により温められた温泉で、深層地下水型に分類される。

一風呂浴びた後は、もう少し歩いてバスの便が多い本通りに出るのが良い。途中、自然環境保全センターに立ち寄るのも良いし、地ビールを飲んで帰るのも、また楽しい。帰りのバスは、本厚木、愛甲石田、伊勢原の各駅に向かう路線がある。(9月記 瀧澤)